



ニュースレター復刊と沢田内科の新たな船出のお知らせ

沢田内科医院ニュースレターを復刊します。これまでは2ヶ月に1回、年6回の発行でしたが、今後は1月、4月、7月、10月の年4回、季刊としたいと思います。



途絶えていた理由としてはいろいろありますが、やはり入院病棟の閉鎖に伴う業務内容の見直し、体制の立て直しに注力したかったというのが第一に挙げられます。全職員と個別に面談し、問題点と個々の目標を確認しました。その上で医院の方針の再設定と働き方改革を行いました。入院病棟が存続できなかったのは痛恨の極みではありますが、今の沢田内科医院に求められているものをしっかり分析し、期待に応えられるようがんばっていききたいと思います。

では沢田内科の役割とはどんなものがあるのでしょうか。私の中では大きくわけて4つあると思っています。

やく「診断＝症状に病気の名前をつけていくこと」を心がけています。

採血検査は特殊なものを除き、即日院内で検査し結果を出します。コロナのPCR検査も当日結果が出

ます。私は消化器内科出身ですので胃カメラ、腹部超音波検査、大腸内視鏡検査も必要に応じて即日検査をしています。心筋梗塞は弘大病院循環器内科、脳梗塞は弘前脳卒中リハビリテーションセンター、その他入院治療が必要な急性



④教育 2024年2月、弘前総合医療センター、村松凱斗先生

期疾患は弘前総合医療センターや健生病院というように、早く症状が改善するように適切な医療機関へ迅速に診療をつないでいきます。病棟を持っていたときは文字通り24時間365日、それをおこなっていました。病棟を閉めてからも時間制限はあるものの週6日間医院にアクセスできるように維持していききたいと思います。

①健診

一つ目は「健診(+がん検診)」です。弘前市の特定健診、後期高齢者健診を合わせると市内で行われている健診のうち約10%が当院で行われています。内視鏡胃がん検診についていえば市内全体約5000人のうち約1000人(20%)が当院での検診です。健診を行うことで、無症状の高血圧、脂質異常症、糖尿病を早期発見し、脳梗塞、心筋梗塞を予防することができます。また胃カメラでは毎年当院で一般診療と検診を合わせて約2000人が検査を受けて約20人が早期胃癌と診断され、全員大学病院で内視鏡治療をして完治しています。5年で100人もの方が胃癌で命を落とさずにすんでいることとなります。

③かかりつけ医

三つ目は「どこにいったらいいのかわからない症状、どうしたらいいのかわからない患者さんをみる」ことです。わかりやすくまとめると「かかりつけ医」としての役割です。大学病院やその他の大きい病院では専門分化が進んでいます。別の言い方をすると、その分野とわかりさえすれば専門の医療を受けられるのですが、どこにいったらいいのかわからない場合はここにたどり着くことができません。手のしびれと

②急性期医療

二つ目は発熱外来をはじめとした「急性期医療」です。発熱や腹痛、胸痛、めまいなど急に具合が悪くなったときにできるだけは

いっても、それが内科的なものなのか、整形疾患なのか頭の病気なのか分からないと受診できないということです。他の病院でみてもらったけどよくなる、コロナ後遺症をみてもらうところがないなど様々な方が、この茂森新町の住宅街の中まで訪ねてきます。どこでどう治療したらいいのか、方針がしっかりつけられるように一緒に考えられる場所でありたいと思っています。

④教育

四つ目は「教育機関」としての役割です。当院では弘前市医師会看護専門学校（看護学科、准看護学科）の学生を受け入れ、一緒に働きながら看護について実践的に勉強しています。また医師国家試験合格後2年目医師の地域医療研修（1名で1ヶ月間）を受け入れていきます。弘大病院、弘前総合医療センター、黒石病院から1ヶ月ずつ毎年3～6名の研修医が勉強にきています。2024年も4名の先生方がこられました。大きい病院では経験することができない一般診療の研修をしています。また弘大医学部の1年生の臨床体験実習、東目屋中学校、第四中学校からは2年生が短期間の職場体験実習を行っています。私たちが提供している医療を中からもみてもらうこと



2024年5月、弘前総合医療センター、菊池日菜子先生

で、職業としての面白さや奥深さ、厳しさを体験することができます。また、看護師として働きながら糖尿病療養指導士や超音波検査士を目指して勉強している職員もいます。漫然と日々の業務をこなすだけでなく、目標を持って日々の診療を行うことで、医療の質の向上につながっていくと考えています。

新生沢田内科医院として以上の4つの柱をモットーに、質の高い医療を提供していきたいと思っています。

④教育



2024年10月、弘前総合医療センター、石本啓太先生

④教育



2024年12月、黒石病院、奈良岡春希先生

外来リニューアルと院外処方

外来 リニューアル

入院病棟を閉鎖しましたので、その分のスペースを有効利用するために2024年後半に院内のリフォームを行いました。2階病室は個室2部屋だけを残してベッドをすべて処分しました。残った病室は大腸内視鏡検査の前処置や、糖尿病の食事指導のため利用します。旧病室は職員休憩室、職員ロッカールーム、カルテ庫、物置、院長室に改装しました。1階にあった院長室、職員休憩室、職員トイレのスペースは壁を取り払い、発熱外来とPCR検査機器置き場、外来処置ベッド、物置、車いすトイレになりました。また、外来診察室はもう一つ増やし4ブースになりました。これまで予診室として利用していた3番診察室は今後、糖尿病療養指導士をもつ看護師が外来通院時に生活指導を行う場所として利用する予定です。新設の4番診察室はベッドを置けるようにしました。ふだんは予診をとるために利用しますが、将来的にはここでも腹部エコー検査を行えるようにする予定です。

外来リニューアル



車椅子トイレ（多目的トイレ）を作りました。

院外処方

また今年6月より院外処方にする予定です。これまでは入院病棟があって、24時間365日通院患者さんから電話を受け、休日、時間外、夜間でも診療を

外来リニューアル



1階廊下の壁を撤去し、発熱外来、処置、ベッドスペースを拡充しました。

していました。そのためいつでも処方できるように院内に薬局をおいていました。今回病棟をなくするにあたり、その必要がなくなったため院外処方にすることにしました。今後は処方箋があれば、医院の隣にできる院外薬局をはじめ、ご自身の自宅近くの薬局でもくすりをもらうことができます。6月1日を目標にスムーズに移行できるように準備していく予定です。

弘前大学医学部新入生歓迎会 (澤田美彦)

令和6年4月3日、2日後に控えた弘前大学の入学式に先立って医学部で新入生歓迎会を開きました。私は医学部同窓会鵬桜会の理事長ですので118名の新入生を前にして歓迎の言葉を述べました。私もそうでしたがほとんどの学生は医師とは何かを深く考えてはいないと思います。医学生はこれから医学の知識を学び実習をするわけですが、その背後にある医師とは何か、医学とは何か、医療とは何かを考えながら医師になって欲しいという願いを込めて歓迎の言葉を述べました。以下は一部割愛していますが歓迎の言葉です。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。期待に胸を膨らませて入学式を迎えたことと思います。弘前大学医学部には鵬桜会という同窓会があります。私はその理事長を務めています。今日は、皆さんの先輩を代表してご入学をお祝い申し上げます。

医学部へ入学するという事は、医師になるという目的のためだと思えます。皆さんはどのような動機で医師になろうと弘前大学医学部へ入学してきたのでしょうか。どのような医師になろうとして入学してきたのでしょうか。もちろん動機はみんなそれぞれ違うと思えます。崇高な理想を掲げて入学した人、病む人を助けたい、社会的地位が高い職業だ、収入が多い、親に勧められた、勉強ができるので医学部を受けた。医師になるということはどういうことなのかをしっかりと考えていない人もいるかも知れません。

医療とは何なのか、医学とは何なのか、医師とは何なのか、医師にはどのようなことが必要なのか。どのような動機で入学してきても、これから医学を6年間勉強する中でよく考えればいいことです。その中で自分がどのような医師になるのか、どのような道を進むのかを決めて行けばいいことだと思います。

皆さんの先輩として、皆さんを歓迎して話をしていますが、二つのことを覚えておいて下さい。江戸時代の終わ

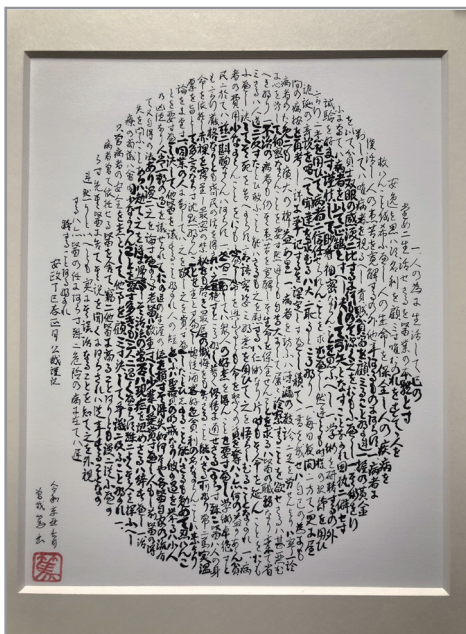
りの頃に、緒方洪庵という医師がいたということ、「医戒」というものがあるということ、この2つです。

今はコロナウイルス感染症がダラダラ続いていて亡くなった人もたくさんいます。江戸時代の終わり頃、天然痘とコレラが流行し多くの方が亡くなりました。この時に医師として活躍したのが緒方洪庵です。緒方洪庵は、約200年前にドイツの医学書を約30巻、最後の部分を「医戒」、医学に医、戒めの戒で「医戒」の名で日本語に訳して出版しました。

『医戒』には、医師が守るべき戒めが12ヶ条にまとめられているのですが、これら12ヶ条の一つひとつが、医療を実践する者にとって「医療倫理」とも呼べる優れたものです。ここでは詳しくは述べませんが、「人としていかに生きていき、命を救う立場にある医者はどう行動するべきか」を教えたのです。医師のみならず、これから医学を学ぼうとする者にとっても、必要なことが書かれています。時代背景が違いますので違和感を覚える部分もありますが、200年の年月が流れてもその神髄は変わりありません。

皆さんは医師になろうと一生懸命勉強してきました。しかし、医師とはどのようなものであるのかを深く考えたことがある人は少ないと思います。皆さんがどのような動機で医師になろうとしてこの場にいても構いません。これから6年間、医師になるための勉強をします。医師としての勉強はそれ以後も生涯続きます。そして、医師をするためには医学的知識や医療技術だけでなく、どのような心構えが必要であるのか、そのことも必要になります。その時に、緒方洪庵、医戒のことを思い出してください。

6年後には医師国家試験が待っています。でも、学生時代は勉強するだけではなく友達作りにも励んで下さい。きっと皆さんの大きな財産になることと思います。本日はご入学おめでとうございます。



曾我篤さんが「医戒」の約1300文字で描いた緒方洪庵